

第二十八課

父よ。わたしの願うことではなく

犠牲としてのキリスト

「またこう言われた。『アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。』」
(マルコ一四・三六)

この数時間の隔たりにしては、なんと対照的なことでしよう。天を見上げて、「父よ。お願いします」と語った静かな高い所から、苦しみもだえて、「父よ。わたしの願うことではなく」と叫ぶ低地に落ちてしまうとは、なんとという変り方でしょう。一方において、幕の内側で勝利あるとりなしの祈りをささげる大祭司の姿を見るかと思えば、他方において、裂かれた幕を通して道を開こうとする祭壇上のいけにえを見るのです。「父よ。お願いします」という大祭司としての祈りは、時間的順序としては、犠牲を意味する、「父よ。わたしの願うことではなく」という祈りに先立ちます。しかし、それは、いけにえがささげられた時に、とりなしの祈りはどのような

ものになるかを示す事前の行為にすぎません。実際には、「父よ。わたしの願うことではなく」という、あの祭壇での祈りにこそ、「父よ。お願いします」という御座の前での祈りの起源と力があるのです。ゲッセマネで御自分の意志を完全に明け渡したので、御座における大祭司として、その願うものを求める権利を与えられ、またその民にもその願いを求めることを許す権利を与えられたのです。

イエスの学校で祈りを学びたいと願っている者にとって、このゲッセマネの学課は、最も聖く、また尊いものです。軽薄な生徒にとって、ゲッセマネは、信仰によって祈る勇気を失わせるものであるかもしれません。御子の最も熱心な求めさえも聞かれなかつたら、あるいは、愛する御子でさえも、「わたしの願うことではなく」と祈らなければならなかつたら——私たちはそう祈らざるを得ませんが——「あなたがたの求めるものは何でも」などという約束を文字通りに取ることはできなくなります。しかし、ゲッセマネについて、もっと深い洞察をするなら、そこには、私たちの祈りの答の確かな基盤と確信への道が開かれているのが分るはずです。敬虔に神をあがめ、驚きをもって神に近づいて、この偉大な出来事をしつかりと見極めましょう。神の御子は、涙を流して熱烈な祈りをささげましたが、御自身の求めたものを得られませんでした。主御自身が私たちの教師であります。主は、この驚くべき祈りに示された聖いけにえの奥義を私たちに明らかにしてくださいました。

この祈りを理解するために、先に王の大祭司として祈られた祈りと、ここで御自分の弱さを覚えながら祈っておられる祈りととの間に大きな相違のあることを知る必要があります。あの時は、主は、御父の栄光と、御自身に与えられた約束の成就として、御自身と御民に栄光が与えられることを祈られました。主は、みことばと御父のみことばにかなうことを求められているのです。ですから、大胆に、「父よ。お願いします」と言われたのです。ここでは、御父のみことばがまだ明白でないことについて祈っておられます。その杯を飲まなければならないことについて、弟子たちに話しておられました。その少し後で、「わたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう」と言われています。主は、このために世に來られたのです。しかし、暗黒の力が臨み、言語に尽しがたいほどのたましいの苦しみが襲い、罪に対する神の怒りとしての死の最初の一滴を味わうと、イエスの人間性は、のろいという恐ろしい現実を前にして震え、この苦悩の叫びをあげました。そして、これなしで神の目的が遂げられるものなら、この恐ろしい杯を除いてほしいと願われるようになったのです。この願いは、イエスの人間性のれっきとした現実を証明しています。「わたしの願うことではなく」という願いによって、罪に陥ることのないようにされたのです。「あなたにおできにならないことはありません」と嘆願するように叫ばれ、更に熱意を込めて、杯が取りのけられることを求めた時に、三度も「わたしの願うことではなく」と言われたことは、イエスの犠牲の本質とその価値そのものを示しています。主は、あなたのみことば

ですと言うことのできない事柄を祈っておられました。神の力と愛を求め、ついに、「あなたのみこころのままを、なさってください」と言われ、その願いを引っ込められました。杯を取りのけてくださいという祈りは答えられず、神のみこころがなりますようにという服従の祈りは聞かれたのです。まず恐れに對し、続いて死の力に對して勝利が与えられるという輝かしい答を与えられました。

御自分の意志を捨て、御父のみこころに完全に従ったことによって、キリストの従順は最高潮に達しました。ゲッセマネで意志を犠牲にされたからこそ、カルバリでのいのちの犠牲の価値が生じたのです。ここで主は従順を学ばれ、すべての従う者に永遠の救いを与える方となりました。その祈りによって、死に至るまで、十字架の死に至るまで従順になられたので、神は主を高くあげ、御自身の望むところを願う力をお与えになりました。「わたしの願うことではなく」という祈りの中で、「父よ。お願いします」と祈る力を与えられたのです。御自身の願いがなることを求めなかったゲッセマネの服従によって、民に對し、「何でもあなたがたのほしいものを求めなさい」と言つて、その権利を確保してくださったのです。

ゲッセマネが与えてくれた奥義をもう一度見てみましょう。第一に、御父は愛する御子に杯（怒りの杯）を差し出されました。第二に、いつも従順であつた御子は、たじろぎ、それを飲まないでもすむようにと嘆願なさいました。第三に、御父は、御子の要求にお答えにならず、なお

杯を差し出し続けられました。最後に、御子は、御自身の意志を曲げ、御自身の願いが遂げられなくても満足し、カルバリに出て行つて杯を飲まれました。ああ、ゲッセマネ！そこには、主が私の祈りに答えてくださる無限の保証があります。主は、御自身の願いが答えられなかったことに満足し、それによつて私たちのための保証を勝ち取られたのです。私はそれを確信します。

このことは、贖いの計画全体と一致します。主は、苦しみによつて、その反対のものをいつも与えてくださいます。自ら縛られることによつて、私たちを自由にしてください。自らが罪となつて、私たちを神の義とやらせてくださいます。自ら死んで、私たちを生かしてください。自ら祈りに答えられないことに耐え、私たちの祈りが答を得るようにしてください。私の願うことではなく」とお語りになり、私たちには次のように言うてくださるのです。「あなたがたがわたしに……とどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」

そうです。「あなたがたがわたしにとどまるなら」です。ゲッセマネでは、このことは、新しい力と深さを求めます。キリストは私たちのかしらであり、私たちの保証人として私たちの負うべきものを私たちに代つて負ってください。私たちは、神が私たちに対して耳を閉じ、私たちの叫びを無視されても当然の人間でした。キリストがおいでになり、このことを身に負つて

苦しんでくださったのです。私たちが受けるはずの苦しみをキリストが受けてくださったのです。私たちの罪のために、キリストは、あの聞かれない祈りの重荷を負い、苦しんでくださいました。そして今や、キリストがこのように苦しんでくださったことが、私に役立っています。私がキリストにとどまっている限り、キリストの功績により、あらゆる祈りの答が得られるようになったのです。キリストがゲツセマネで服従されたように、私はキリストのうちにとどまらなければなりません。私のかしらとして、キリストは苦しんでくださっただけではなく、私のうちに生きて、息づき、御自身の性質を私のうちに働かせてくださいます。キリストは、永遠の御霊によつて御自身を神におささげになりました。その御霊が私のうちに住んでくださつて、同じ従順にあずからせてくださり、神に意志をささげさせてくださるのです。その御霊が、自分の意志を全く御父のみところに従わせ、死に至るまでもそれを捨てるように教えてくださっています。私たちは、キリストにあつて死んだ者です。御霊は、心や考えや意志がどのようなものであつても——たとい、直接罪とつながらないものであつても——それを恐れて避けるように教えておいでになります。御霊は私の耳を開いてくださり、御父が毎日私に語り教えてくださることを、敬虔に、素直な気持で待つようにしてください。神のみところに愛をもつて結びつくことが、神御自身に結びつくことになることを私に知らせてくださるのです。神のみところに完全に従ふことは、神が求めておられることです。御子がその模範であつて、たましいの本當の祝福となり

ます。御霊は、私をキリストの死と復活にあずからせてくださいます。私の意志はキリストのうちに死に、キリストにあつて、ふたたび生かされます。また御霊は、新しくされた生ける意志に、神の完全なみこころを洞察する力、みこころのままに用いられる器となるための自由、聖い喜び、祈りに答えられる力を吹き込んでくださるのです。私は、自分の全意志をもって神とその御国のために生き、死んでよみがえったその意志の力を、現実の中で、地において、天において、人に対し、神に対して働かすことを学ぶでしょう。「わたしの願うことではなく」というゲツセマネに、また、そうお語りになった方に深く入って行き、その方のうちにとどまればとどまるほど、「父よ。お願いします」という主の力へと、いっそう豊かに靈的に近づくのです。そして、神のみこころをすべてとするようになった意志は、神の力によって強められて、真実に神のみこころを願うようになり、キリストの御名によって約束されたものを要求するようになります。

主は、「あなたがたがわたしに……とどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます」と言われます。ですから、ゲツセマネのキリストに耳を傾けましょう。キリストは神のみこころに従ってすべてを捨てられました。私たちも、思いにおいても、霊においても、キリストと一つになり、御父に服従して、キリストのように生きましょう。これこそ、キリストにとどまることであり、祈りの秘訣であります。

恵み深い主イエスよ。ゲツセマネはあなたの学校でした。そこであなたは、祈ることと従うことを学ばれました。そこは今もあなたの学校です。あなたは、あなたのように従い、祈ることを進んで学ぼうとする弟子たちを、そこで指導されます。主よ。私にそこで祈ることを教えてください。あなたは、私たちの罪深い意志を贖い、征服してください、あなたのように祈る恵みを実際に与えてくださることがおできになることを信じます。

神の小羊よ。私は、ゲツセマネまであなたに従ってまいります。そこであなたと一つになり、あなたが死に至るまで御自分の意志を御父に従わせられたように、私もあなたのうちにとどまります。あなたとともに、あなたによって、あなたにあって、私は自分の意志を曲げ、御父のみに、絶対的に、完全に従わせます。自分の弱さと、自分の意志が我を張りやすく自分の王座を占めやすいことを意識しつつ、信仰によってあなたの勝利を得たことを主張します。あなたは御自身の意志に勝利され、私をわがままから救い出してください。あなたの死によって、私は毎日生きます。あなたのいのちによって、私は毎日死にます。あなたのうちにとどまることによって、あなたの永遠の御霊の力によって、私の意志が、神のみこころに従う道具となりますように。私は、あなたとともに、あなたにあって、全霊を傾けて、「父よ。わたしの願うことでは

なく、あなたのみこころのままを、なさってください」と言います。

そして、恵み深い主よ。私と、あなたのすべての民の心を開き、真理の栄光を完全に得させてください。神にささげられた意志は、あなたの奉仕に用いられるために、神に受け入れられた意志であり、神のみこころにかなうものを欲し、目指し、決め、願います。意志は、内住の神である御霊の力によって、祈りにおいてその王権を行使し、天においても、地においてもつなぎ、また解き、望むところのものを求め、与えられると言うのです。

主イエスよ。祈ることを教えてください。アーメン。